



株式会社 TAMARU



所在地 山口市大内問田3丁目 23-23

連絡先 TEL 083-923-2026

H P <https://carshop-tamaru.com/>

代表取締役 横岡 摂樹



今月号では、車検・板金・塗装・車両販売から、福祉事業までを手掛ける株式会社TAMARUの代表取締役横岡摂樹氏にお話を伺いました。

●沿革

- 昭和44年 有限会社タマル钣金として開業
- 平成17年 株式会社TAMARUに社名変更
- 令和2年 福祉車両の改造事業を開始

●板金・塗装で50年以上、福祉車両事業にも注力

当社は、各種自動車の販売や修理、車検、板金・塗装のほか、近年は福祉車両の改造やメンテナンスにも注力しています。山口県整備技能競技大会優勝や、板金・塗装のグランプリ中四国大会への進出者を6名輩出するなど最高水準の技術力と、ヒアリングを大切に「おもてなしの心」でお客様のカーライフをサポートしています。

板金・塗装は国産車だけでなく難易度の高い輸入車も承っています。例えばメルセデス・ベンツなどの輸入車ディーラーである(株)ヤナセ様とは長年の取引があり、ベンツの修理台数は県内トップクラスです。そのほか、イギリスの自動車会社「ジャガーランドローバー」や、韓国の自動車メーカー「ヒョンデ」の修理指定工場にもなっています。

板金・塗装から始まった会社ですが、これからは人口が減り、それに伴って車も減るため既存のビジネスだけでは厳しくなっていくという考えから、自動車に関わる福祉事業にも取り組むようになりました。



輸入車メンテナンスの様子

●父の後を継ぎ経営改善、将来を見据えた取り組み

私は2代目社長で、父が(有)タマル钣金として開業したことが当社の始まりです。元々、後継ぎになることはあまり考えておらず、関心のあった高齢者福祉や児童福祉の仕事をしたと思っていました。しかし、就職活動をする中で、福祉業界の厳しさを実感することもありました。

そこで父に相談したところ、「自分の後を継いで会社を豊かにして、自分の思うような福祉活動ができるようにすればいいんじゃないか」と言われ、後を継ぐことを決めました。

最初は現場に入って車のことを覚えたり、技術を身に付けたりすることに必死でした。父からは「これくらい豊かになっていく」という将来設計の話聞いており、それに向かって頑張っていたのですが、いくらやっても経営状況が良くならないことを不思議に思ったのです。そこで初めて会社の通帳を見せてもらうと、理想に聞いていたことと現実との差に驚きました。

そこで、約20年前、私は半ば強引に役員になることを宣言し、3年間ほど経営権を委ねてもらおうよう申し出たのです。資金に余裕がない中ではありましたが、人を呼ぶためには心地よい空間が必要だと考えて、事務所を建て直すことから始めました。

この業界は下請け体質が強く、来客スペースは重視されない傾向にありました。しかし、修理の下請けでは部品の利益が出ず、工賃も全てが入ってくるわけではありません。そのような状況を抜け出すため、自然とお客様に足を運んでもらえる空間を作りたいという思いだったのです。

経営権を委ねてもらってから間もなくの大型投資には、父とぶつかることもありました。しかし、それまでは顧客であるお父さんがご家族の車を代わりに持ってこられていたのを、娘さんが直接来店してくれるようになるなど、今となっては良い選択だったと実感しています。

また、その頃に「複合施設をつくる」ということも宣言していましたが、「できるわけない」と社員から笑われましたが、これも必要なことと推し進めました。

事故が起こらない方が良いことは当然ですが、私たちにとって事故が発生したときがビジネスの機会になるタイミングでもあります。しかし、いつ事故が起こるかとは分か



事務所内の様子



カフェ「ナンテン」とアパレルショップ「スローフ」

らないことで、生涯で一度もないかもしれません。車検の機会をいただけても2年に一度のことです。それだけビジネスチャンスが限られた上に、パイの少ない山口で継続的にお客様とお付き合いできるようにするためには、用がなくても人が来る仕組みを作らばいいと思ったのです。そこで、当社のお客様として関わりのあった方々と話し合いを重ね、敷地内にカフェとアパレルショップを併設しました。これまで多くの方に足を運んでいただくきっかけになっています。

●お客様の思いを叶える福祉車両の改造

福祉車両の改造やメンテナンスには約5年前から取り組んでいます。同事業のはじめは約10年前、お客様からの依頼で、家族を病院に連れていくために車いすを乗せられるレンタカーを探す手伝いをするが増えたとき、台数が限られていることが分かり、自社でハイエースを購入して介護用のレンタカーを準備したことでした。

そのうち、車いす生活になったお客様から「今乗っている車を改造して乗り続けたい」という声を聞くようになり、乗りたい車と実用的かどうかは両立しないことが分かりました。また、若くして車椅子が必要になったお客様からは、誰かの世話にならなければ移動できなくなったことへの苦悩も聞き「本当は自分で運転したい」と言う思いも聞くようになりました。そこで「自社で改造できれば良いのではないか」という考えに至ったのです。高齢者が増えていく将来に向け、板金・塗装などの軸を支える事業としても、福祉車両に力を入れようと決めました。

福祉車両の改造ビジネスを始めるに当たっては、福祉車両改造に特化したヨーロッパの改造資材の日本総代理店であるオフィス清水様に掛け合い、様々なレクチャーを受けながら同社の認定取扱店となりました。山口県内では認定取扱店は当社のみです。福祉車両の改造ができる会社は限られるため、遠方から来られるお客様もいらっしゃいます。

自由に移動できることは当たり前のように感じられますが、そうではない方もいらっしゃいます。事故などで障がいを持った方にとって、行きたいところに自分で行けなくなるということは計り知れないストレスだと思います。介護する側にとっては、車いすの乗せ降ろしだけでも日々の負担が大きく、介護される側も申し訳なさで苦しい思いをされるようです。50年以上の経験がある事故車の修理も、福祉車両の改造も、どちらもお客様に喜んでいただけて非常にやりがいを感じるのですが、後者は異質で、涙を流して喜ばれることもあります。

障がいの度合いは千差万別で、改造方法は100人いれば100通りになります。丁寧なヒアリングで現状を把握し、お客様の要望にたいして最適な提案ができるようにしています。

改造の内容は様々ですが、例えば足が不自由な方には、手動運転装置を設置します。ハンドルにグリップをつけて右手で回せるようにして、左手でアクセルとブレーキを操作できるようにするレバーを取り付けます。アクセルリングといって、ハンドルの奥に別のリングを設置して握ったり離したりすることでアクセル操作を可能にするものもあります。

大きく利益が出る事業ではないので、同じようなビジネスを辞められる会社も一定数あります。自動車メーカーも、車いすを積めるようにするオプションを減らしている傾向にあります。日本の場合、各車専用のパーツを作り、ボルトオンで簡単に取り付けられるくらいに開発するため、その分コストがかかってしまうのです。一方、ヨーロッパの場合は、どんな車にも付けられる汎用性の高いパーツが売られており、車の方を加工して取り付けようになっています。お客様のことを考えると、この事業をしっかりと継続していかなければならないなと思います。



アクセルリングやブレーキレバーを取り付けた改造車両

●福祉事業の推進、人材育成でさらなる発展を

当社は移動スーパー「とくし丸」の修理・車検などを受ける認定工場になっており、山口から沖縄までの販売権も取得しています。高齢者が増えていくと、免許返納などにより、車社会の地方では買い物に困る方が増えていきます。とくし丸は今後需要が伸びていくと考えられるので、注力していきたい事業の一つです。

しかし、色々と展開していきたい思いがあっても、人がいなければ実現できません。福祉車両の改造についても、昨年ポルシェの新車に手動運転装置を付ける仕事を任せていただいたので、大々的に宣伝したい気持ちはあります。ただ、広報したことで依頼が殺到しても許容範囲を超えてしまって受け付けきれない現状があり、発信を控えているところがあります。しっかりと上質な社員教育ができる会社となり、やりたいことを展開して、思いを実現できるようにしたいと考えています。



移動スーパー「とくし丸」